国指定史跡

志波城跡

―第100次発掘調査　現地説明会資料―

(中間報告)

第1図　志波城跡　位置図

2006年10月8日(日)

盛岡市教育委員会・盛岡市遺跡の学び館

1　はじめに

史跡志波城跡は、盛岡市南西部の下太田方八丁地内他に所在する、延暦22年（803年）に坂上田村麻呂によって造営された陸奥国最北の城柵跡です。

志波城跡の発掘調査は、「第Ⅱ期保存整備事業」にともない、政庁及びその周辺域の調査を継続して実施しています。「政庁」域ではこれまでに、正殿・東脇殿・西脇殿・南門・北門・東門・西門・他、計 18 棟の掘立柱建物跡やそのほかの遺構が確認されています。また、政庁周辺の「官衙域」では、掘立柱建物跡や竪穴住居跡などが確認されています。

盛岡市教育委員会では、平成５年から外郭南辺周辺の遺構保存復元整備工事を開始し、平成９年に「志波城古代公園」として開園しました。散策の場や気軽に歴史と触れ合える公園として、年間１万数千人ほどの来場者をかぞえています。平成 15 年（2003 年）には、志波城造営 1200 年を記念し、様々な事業を「志波城古代公園」を会場に実施しました。

現在は、政庁・官衙域の整備を進めており、これまでのところ政庁南門・西門・東門の復元や政庁内部の各施設の表示がされています。今後は政庁官衙域のガイダンス施設として南東官衙域に復元建物を整備する予定です。

2　志波城跡の概要

古代、東北の人々はエミシと呼ばれ、朝廷と交流や争いを繰り返していました。

今からおよそ 1200 年前の平安時代、桓武天皇の時代、坂上田村麻呂はアテルイらエミシ軍との戦いに勝利し、802 年に胆沢城(奥州市水沢区)を、そして翌 803 年盛岡の地に「志波城」を造営しました。

東北各地に 20 数ヶ所造られた「城柵」(東北経営のために造営された行政府)のう

ち、陸奥国最北端に位置する志波城は、国府多賀城(宮城県)に匹敵する規模を誇りました。内部には政庁や官衙建物、兵舎や工房が整然と建ち並び、多くのエミシ達が朝貢や交流に訪れたと考えられます。時の政府がこの盛岡の地に最大規模の城柵を築いたのは、盛岡が広大な平野の広がる肥沃な土地であることや、河川の合流点に位置し、出羽（日本海側）や太平洋側、東北北部への交通の要衝であったためと考えられています。平安時代から現在に至るまで、この盛岡は北東北の中心として栄えていたことがうかがえます。

しかし、志波城は、北を流れる雫石川の度重なる氾濫の被害を受けたことから、およそ 10 年で徳丹城(矢巾町)へ移転してしまいます。城内の主な建物は解体され、雫石川と北上川の水運を利用し運ばれたと考えられます。これ以降、志波城をしのぐ規模の城柵は築かれることがありませんでした。

志波城は「日本紀略」など当時の記録にはあるものの、長い間所在地が不明で、紫波郡内などに候補地と考えられる遺跡がありました。

今の志波城跡の場所は、昭和 50 年代以前には「太田方八丁遺跡」と呼ばれ「前九年合戦」(1051～62 年頃）時の源氏の陣場跡だと言い伝えられてきました。

昭和 30 年代初めの岩手大学板橋源教授の調査（中太田吉原地内）によって、古代の城柵跡ではないかと考えられるようになりました。昭和 51 年、東北縦貫自動車道建設にともなう県教育委員会による発掘調査で外郭の築地塀跡や外大溝、多くの竪穴住居跡が発見され、その後の当市教育委員会による範囲確認調査によって、志波城跡であることが確認されました。そして東北地方の古代史を考える上で欠かせない重要な遺跡であることから、昭和 59 年に国の史跡の指定を受けました。現在でも志波城跡の調査・研究が進められ、その成果をもとに保存・復元・整備が進められています。

3 志波城跡の構造

□立地

・北上川と雫石川のつくりだした沖積段丘面上に立地

・南の胆沢地方、西の秋田(出羽国)方面、北の東北北部などへ通じる交通の要衝

・当時の雫石川は、志波城跡に現在よりも近接して流れていた

・城内北部には、小河川が入り込んでいた

□規模と構造

・外郭　840m四方の築地塀と928m四方の外大溝により二重に区画（※1・2）

築地塀には約60m間隔で櫓

・政庁　城内中央南寄りに、150m四方を築地塀で区画

築地塀の東西南北各々中央に門

正殿・東脇殿・西脇殿をはじめとした建物が整然と並ぶ

正殿・東西脇殿・目隠塀によって囲まれた中央の広場は66m四方

（儀式空間）

・官衙域　政庁周辺の建物群（実務地区）

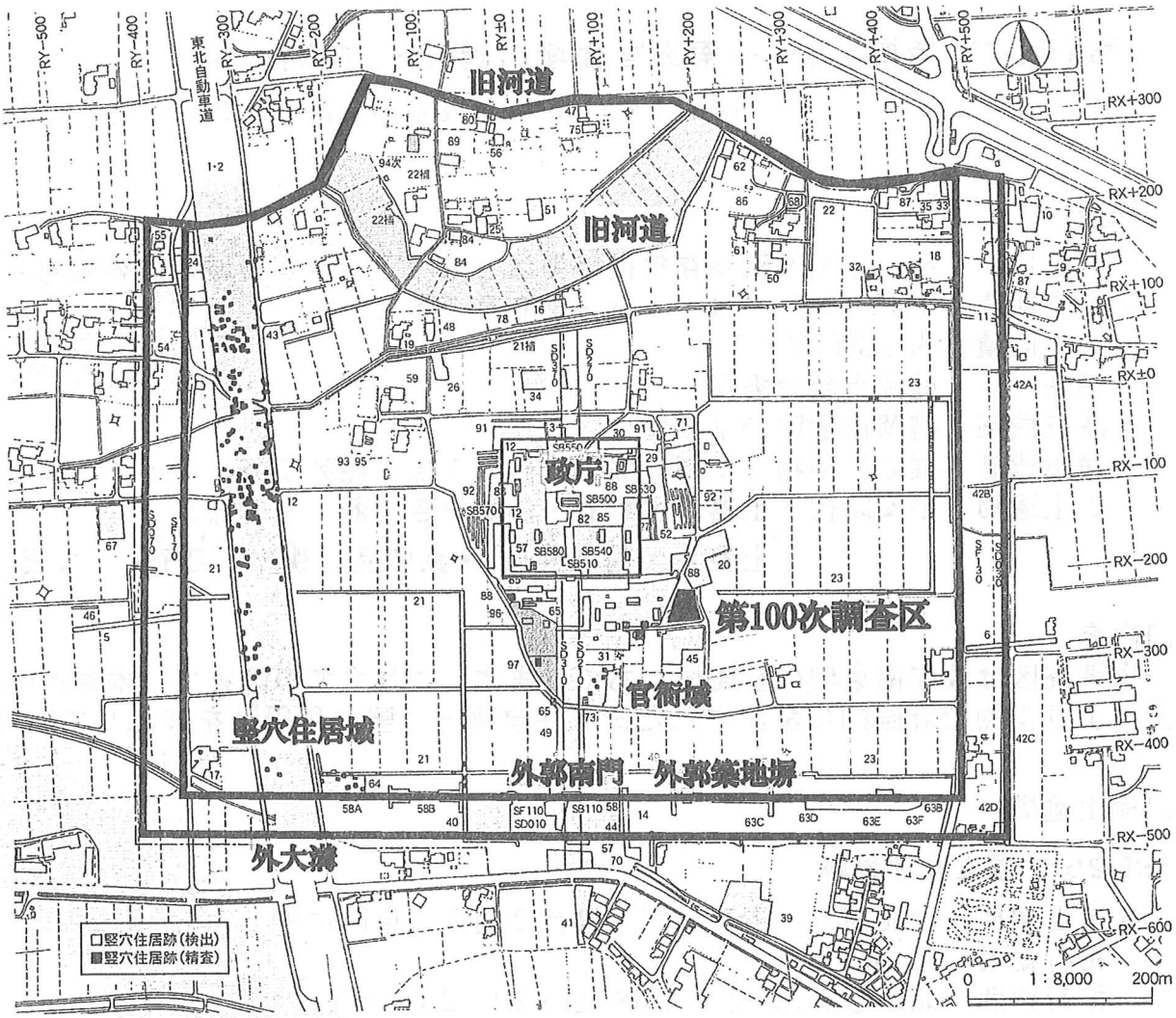
政庁の南東・南西・東に確認されている

・竪穴住居群　外郭築地塀より約108m（一町）内側沿いに帯状に密集

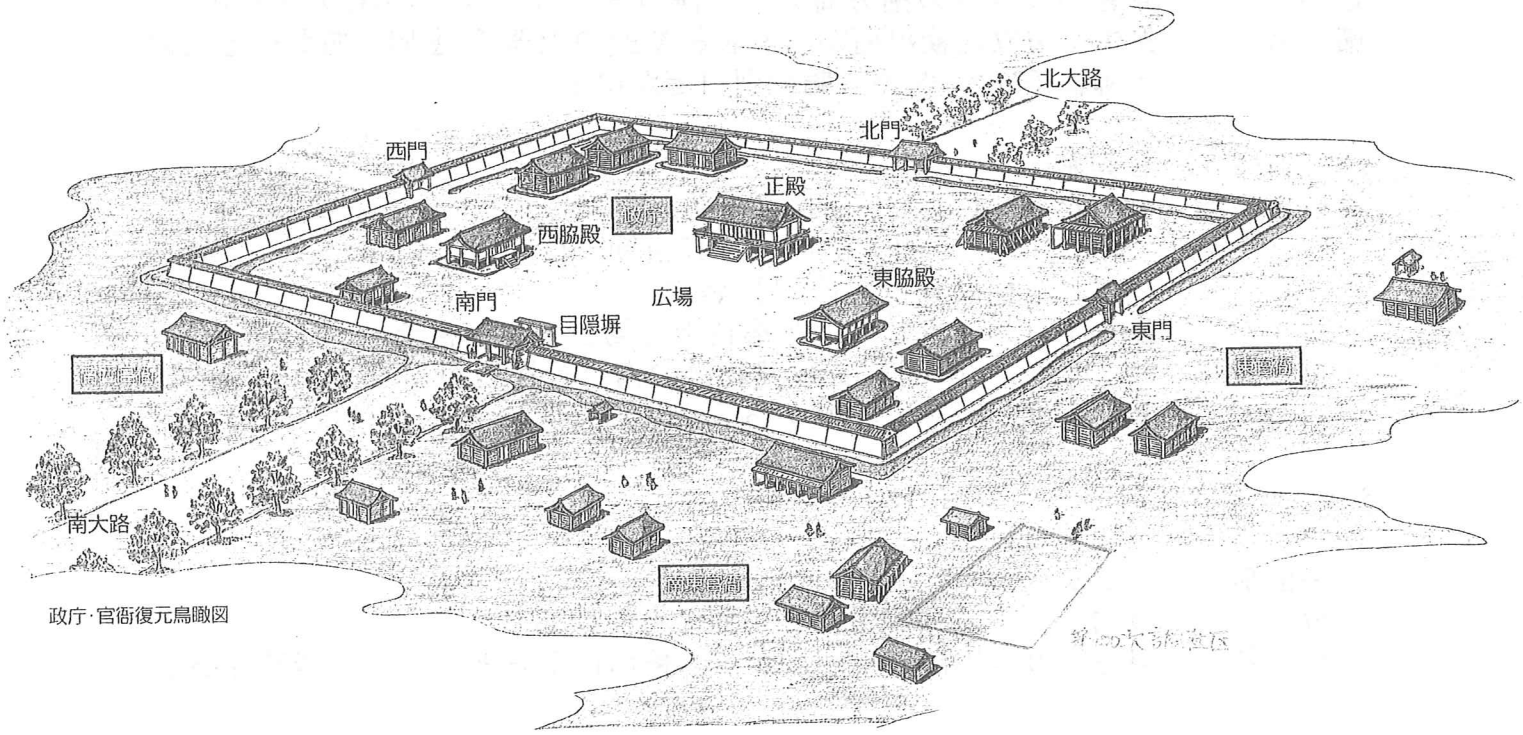
城内に1200～2000棟あったと考えられる（兵舎・工房など）

(※1)　外郭規模は国府多賀城に匹敵（八町四方）。　政庁規模は城柵で最大級。

(※2)　東辺および南辺外郭築地線の一町(約108m)外側(林崎遺跡・新堰端遺跡・田貝遺跡)に、外郭築地線と平行に走る幅5m以上の溝跡が確認されている。これも志波城跡を取り囲む外郭施設ととらえることができ、今後西辺にも同様の溝跡が存在するかどうか等の調査の蓄積が必要である。



第２図　志波城跡全体図（1：8,000）



政庁･官衙復元鳥瞰図

第３図　政庁･官衙域　復元図

4 第100次 発掘調査 ～南東官衙域の調査～ 中間報告

（※平成１８年１０月４日現在 ・調査中のため、中間報告とします。）

□概要

・調査目的　史跡志波城跡保存整備事業にともなう南東官衙域の内容確認
・調査期間　平成１８年９月１３日～１０月下旬（予定）
・調査面積　約 1,300 ㎡
・調査主体　盛岡市教育委員会
・調査機関　盛岡市遺跡の学び館
・検出遺構　掘立柱建物跡１棟、竪穴住居跡１棟、柱列２条、ピット　など
・出土遺物　平安時代　土器（須恵器・あかやき土器・土師器）
　　土製品（鞴の羽口）・鉄製品（鉄滓・刀子）　など

□内容

本調査区は政庁南東側の官衙域にあたります。これまでの調査で、本調査区の西側および南側で計画的に配置された掘立柱建物跡や竪穴住居跡を確認しています。

（ ※ １尺≒３０ｃｍ ）

□検出遺構

・SB255 掘立柱建物跡

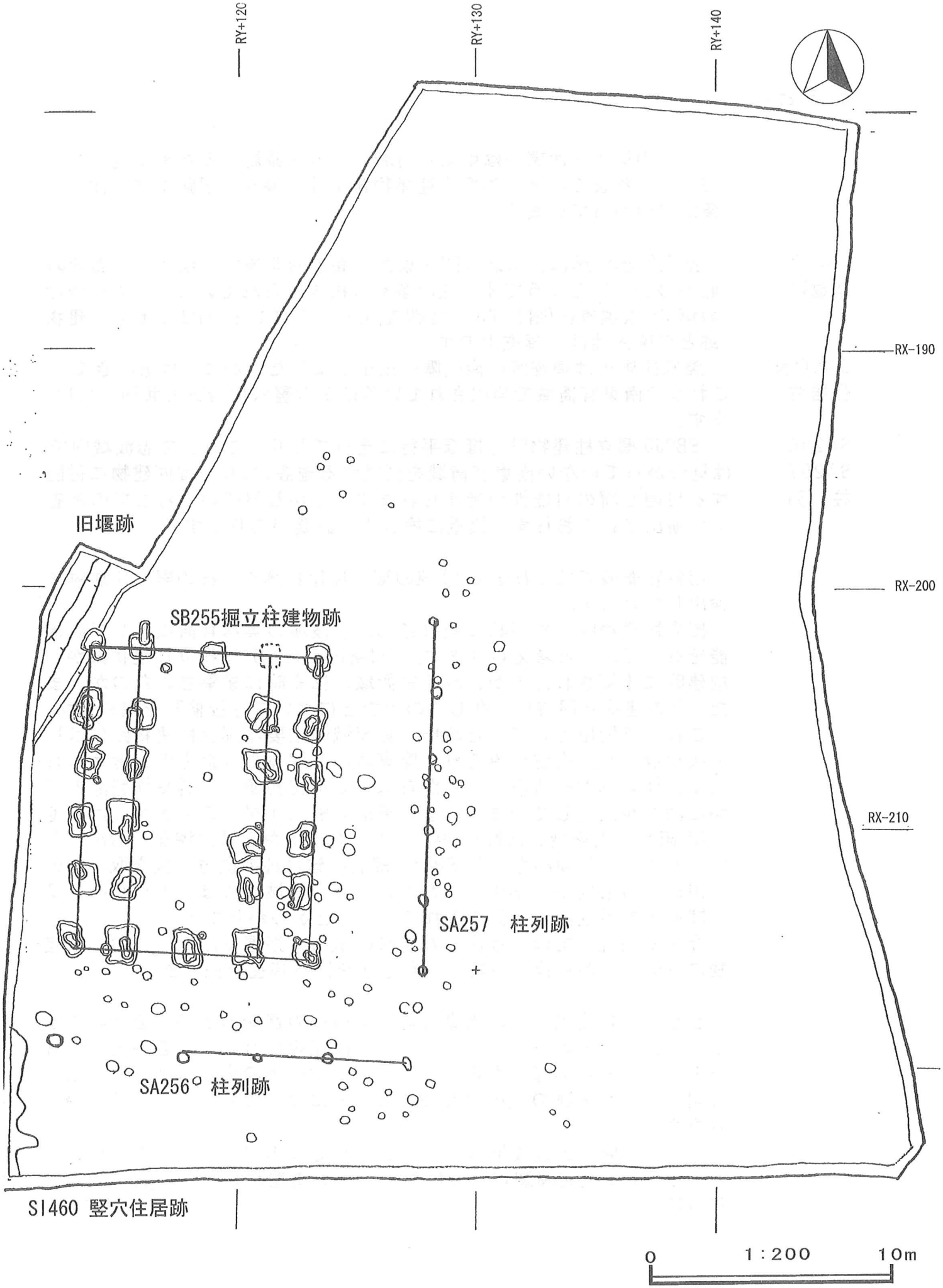
構造と規模　南北棟、　桁行５間・梁行２間、　東西に廂、
　桁行総長　12.6m(42 尺)
　桁行柱間　北から 2.7(9 尺)・2.4(8 尺)・2.4・2.4・2.7m
　梁行総長　9.6m(32 尺) ・
　梁行柱間　身舎 2.7m(9 尺)等間、東西廂 2.1m(7 尺)間
掘　方　一辺 1.0～1.8mの不整方形　・柱　一部抜取
足場穴　身舎および廂の掘方周囲に、径 10～20cm 程度の小柱穴を検出
備　考　掘方、抜取穴検出面から９世紀初頭の土器(須恵器・あかやき土器・土師器)破片、鉄滓、鞴の羽口等が出土

・SA256・257 柱列跡

構造と規模　SA256　東西３間、総長　約 9m(30 尺)、
　　SA257　南北５間、総長　約 15m(50 尺)、
　　いずれも柱間３ｍ（10 尺）等間
柱　穴　黒色土のみ、もしくは暗褐色土と褐色土の混合土
位　置　SA256 は、SB255 掘立柱建物跡の南梁行柱筋から 4.8m(16 尺)、
　　SA257 は、同東廂柱筋から 5.1m(17 尺)の位置に、ほぼ平行に走る。

・SI460 竪穴住居跡　（検出のみ）

規　模　一辺６ｍ以上
平面形　方形か
カマド　東向きに２基の煙道、２時期の可能性あり
備　考　調査区の西側に大半が広がる。検出面からあかやき土器破片出土。



第４図　志波城跡第100次調査　全体図（平成18年10月4日現在）

5 まとめ

今回の第100次調査は南東官衙域の内容を確認するために実施しており、これまでのところ掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡1棟、柱列2条が見つかっています。

SB255 建物跡

掘立柱建物跡は、南北5間・東西2間の南北棟で、東西に1間分の廂がついているようです。柱の多くは抜き取られています。すぐ西側の第36次調査区(昭和60年度調査)で検出しているSB231掘立柱建物跡との関係性は、調査中です。

SI460 竪穴住居跡

竪穴住居跡は調査区の南西隅に検出しました。かまどは東向きで、これまで南東官衙域で検出されているほかの竪穴住居跡と共通しています。

SA256 SA257 柱　列

SB255掘立柱建物跡とほぼ平行に走っており、これまで志波城内では見つかっていない南東官衙域を区画する施設、もしくは同建物に付随する目隠し塀の可能性が考えられます。しかし周辺のこれまでの調査では検出されておらず、慎重に検討する必要があります。

南東官衙域ではこれまで12棟の掘立柱建物跡や2棟の竪穴住居跡を検出しています。

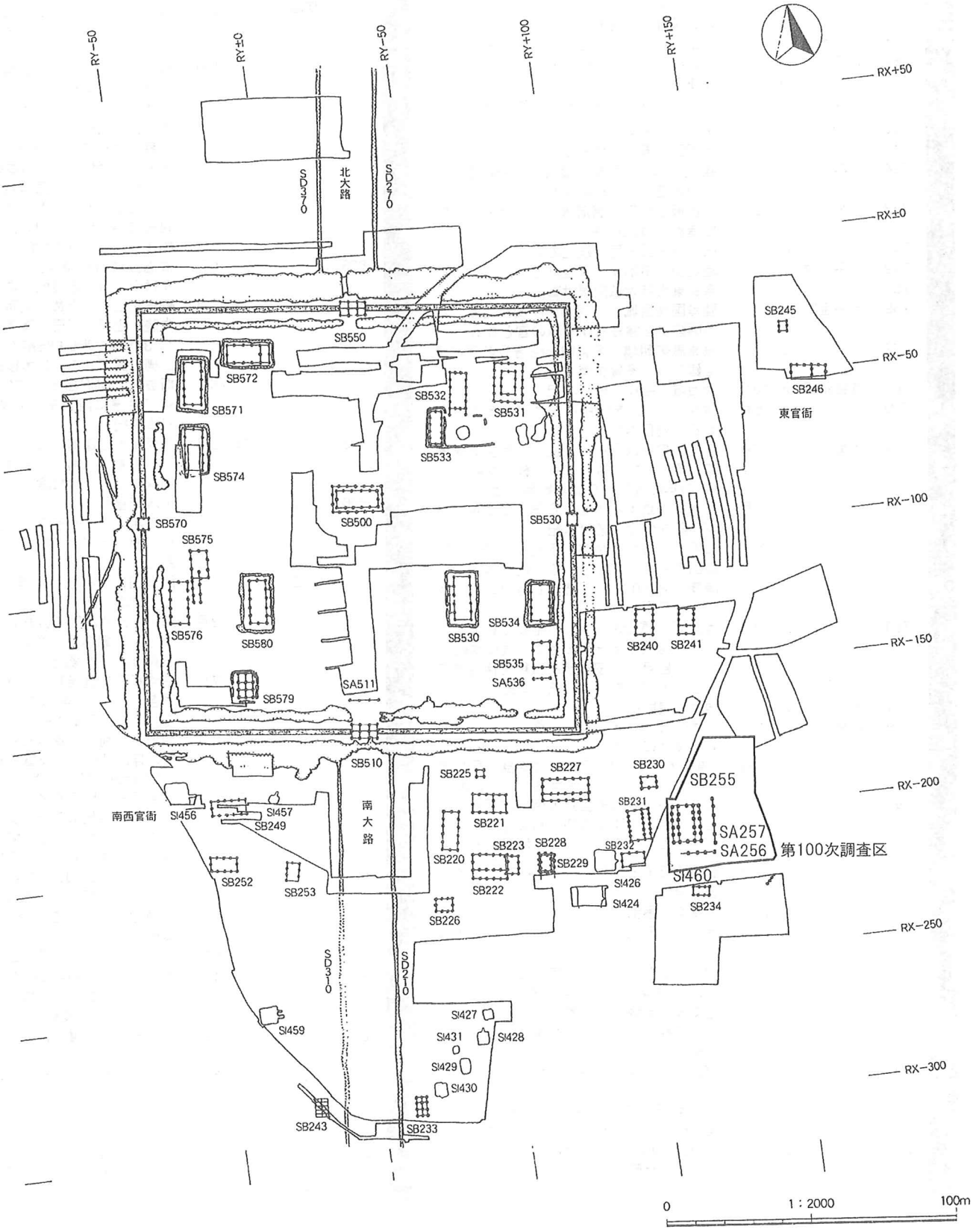
掘立柱建物跡はロ字状に配置され、志波城の実務官衙域としての機能を有していたと考えられます。今回検出したSB255掘立柱建物跡が、創建時に建築されたのか、政庁官衙域の拡充時に建築されたのか、また、どの建物と同時に存在したのかなどについて今後検討を進めます。

これまで検出されていた政庁・官衙域の主要な掘立柱建物跡には柱の抜き取られた痕跡がみられ、廃棄時には解体されたものと考えられます。柱の掘方や抜取穴などからは、9世紀初頭の土器や鉄製品のほかに鉄滓が出土しています。また周辺の竪穴住居跡の床面からは、地床炉(床面で火を焚いた跡)がみつかり、埋土中からは鉄滓なども出土しています。今回検出されたSB255掘立柱建物跡の掘方や抜き取り穴の検出面からも同様に出土しており、南東官衙域周辺は、実務官衙と鍛冶関連工房が近接して配置されていたことがわかります。

今後本調査区では、検出した遺構の構造の把握や記録作成および建物の方向などから他の建物との関連性を探る調査を続けます。

さらに次年度以降は、南東官衙域周辺への遺構の広がりを確認することや、東官衙の実態、政庁北側の官衙建物の有無などを調査し、官衙と工房の立地の様子など、より一層志波城跡の実務エリアの様相を解明し、志波城跡の城内の使われ方などについても検討する必要があります。

なお、今回の調査成果については、平成19年3月に予定しています「平成18年度発掘調査成果報告会」(盛岡市遺跡の学び館)にて報告する見込みです。



第５図　志波城跡　政庁官衙域　全体模式図

◇志波城跡　関連年表◇

時代	西暦	和暦			事項・出典
飛鳥	645	大化	元		大化改新。難波京に遷都。
	649		5		この頃陸奥国を置く。
	658	斉明天皇	4	4月	阿部比羅夫、蝦夷を伐つ。日本書紀
	692	持統天皇	6		この年までに越後国を置く。
	694		8		藤原京に遷都。
	701	大宝	元		大宝律令制定（律令制度の始まり）
奈良	710	和銅	3		平城京に遷都。
	712		5		出羽国を置く。続日本紀
	724	神亀	元		陸奥国に多賀城を置く。多賀城碑文 この頃陸奥国で鎮兵制が成立。
	733	天平	5	12月	出羽柵を秋田村高清水の岡に遷す（秋田城造営）。続日本紀
	741		13		国分寺・国分尼寺建立の詔
	749	天平宝勝	元		陸奥国小田郡から黄金献上。
	752		4		奈良東大寺大仏開眼供養。
	759	天平宝字	3		陸奥国桃生城、出羽国雄勝城が完成。この頃陸奥国鎮守府が常置の官となる。
	762		6		藤原恵美朝猶、多賀城を修造し多賀城碑を建てる。多賀城碑文
	767	神護景雲	元	10月	伊治城が完成。続日本紀
	769		3	正月	鎮兵500余人を鎮所に留めて諸塞を守らせる。続日本紀
	774	宝亀	5	7月	陸奥国の海道蝦夷が反乱し、桃生城を侵略、その西郭が敗られる。続日本紀 〈この年の戦闘から38年戦争が始まる〉
	776		7	2月	陸奥国の軍士20,000人を発して山道・海道の賊を伐つ。続日本紀
				5月	出羽国志波村賊叛逆、下総・下野・常陸等国の騎兵を発して守る。続日本紀
				11月	陸奥の軍3,000人を発して胆沢の賊を伐つ。続日本紀
	780		11	2月	陸奥国、軍士3,000人を発して覚鱉城を造り、胆沢の地を得んとす。続日本紀
				3月	伊治公呰麻呂、按察使紀広純を伊治城で殺し、多賀城を焼く。続日本紀
	781	天応	元		桓武天皇即位。
	789	延暦	8	3月	諸国の軍、陸奥多賀城に会し、道を分かれて賊地に入る。
				6月	3軍にわかれ、賊師夷阿弖流為の居地巣伏村を討つ。朝廷軍被害多し。続日本紀
	792		11	正月	陸奥国斯波村の夷胆沢公阿奴志己ら、王化に帰せんとするも伊治村の俘に妨げられて果たさざるを訴える。類聚国史
	794		13	6月	副将軍坂上田村麻呂以下、蝦夷を征す。日本紀略
				10月	平安京に遷都。
平安	796		15	10月	坂上田村麻呂、鎮守将軍となす。日本後紀
				11月	相模・武蔵・上総・常陸・上野・下野・出羽・越後の国の民9,000人を発して、陸奥国伊治城に遷し置く。日本後紀
	797		16	11月	坂上田村麻呂、征夷大将軍となす。日本紀略
	798		17	4月	諸国移配の俘囚の調庸を免除する。類聚三代格
				6月	諸国移配の夷俘に時服・禄物を毎年与え、時節ごとに饗宴を賜う。類聚国史
	801		20	10月	征夷大将軍坂上田村麻呂、夷賊を討伏する。日本紀略
	802	延暦	21	正月	坂上田村麻呂（造陸奥国胆沢城使）に胆沢城を造らせる（胆沢城造営）。日本紀略
				正月	駿河・甲斐・相模・武蔵・上総・下総・常陸・信濃・上野・下野の国の浪人4,000人を発して、陸奥国胆沢城に配する。日本紀略
				4月	大墓公阿弖流為、盤具公母礼ら500余人を率いて降伏する。日本紀略
				7月	坂上田村麻呂、阿弖流為と母礼を並び従えて入京する。日本紀略
				8月	阿弖流為と母礼、河内国杜山にて斬刑に処せられる。日本紀略
	803		22	2月	造志波城所へ越後国に米30斛、塩30斛を送らせる（志波城造営）。日本紀略
	804		23	正月	蝦夷を征するため、武蔵・上総・下総・常陸・上野・下野・陸奥などの国に、糒14,315斛と米9,685斛を陸奥国小田郡中山柵に運ばせる。日本後紀
				5月	斯波城と胆沢郡とは162里あり、山谷嶮峻で往還に難が多いため、1駅を置く。日本後紀
	805		24	12月	藤原緒嗣の建議により、社会を苦しめていた軍事（征夷）と造作（新京造営）を停廃する（徳政相論）。日本後紀
	806	大同	元		平城天皇即位。
	808		3		この年までに鎮守府が、多賀城から胆沢城に移される（鎮官と国司を別々に任命）。
	811	弘仁	2	正月	陸奥国に、和我・薄縫・斯波の3郡を置く。日本後紀
				2月	陸奥・出羽両国の兵あわせて26,000人を発して、爾薩体と幣伊の2村を討つことを請う。日本後紀
				7月	征夷将軍文屋綿麻呂、陸奥出羽両国の俘軍各1,000人を発して、幣伊村を討つを奏上する。日本後紀
				10月	朝廷軍勝利。帰降した蝦夷は中国へ移配し、俘囚は当地に安置させる。日本後紀 〈この戦闘の終了により38年戦争終結〉
			閏	12月	征夷将軍文屋綿麻呂の奏言により、鎮兵を廃し、城柵の守衛1,000人を置くこととする。ただし、志波城は河浜に近くしばしば水害を受けるので便地に遷すこととし、当面2,000人を置き守衛にあてながら城を移転し、以後は1,000人を留めて鎮守となす（志波城廃絶の建議）。日本後紀
	813		4	5月	文屋綿麻呂、征夷将軍となす。日本紀略
	814		5	11月	胆沢・徳丹2城は国府より遠いため、備えとして糒と塩を両城に収置する（徳丹城初見）。日本後紀
	830	天長	7	正月	出羽国で大地震、秋田城・四天王寺倒壊する。類聚国史
	869	貞観	11	5月	陸奥国で大地震、多賀城倒壊する。日本三大実録
	887	元慶	2	3月	出羽国秋田城下の夷俘が反乱、秋田城・郡院が焼損（元慶の乱）。日本三代実録
	888		3	6月	秋田城・雄勝城・出羽団に列士・鎮兵・兵士ら1,657人を置く。日本三代実録
	1051	永承	6		前九年合戦が起こる。

国指定史跡　志波城跡第100次発掘調査現地説明会資料（中間報告）
平成18年10月8日　　盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館
岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1　TEL019-635-6600